

令和4年度 第3回ユニバーサル都市・福岡推進協議会 議事要旨

1. 日時 令和5年3月30日(月) 13:30~15:00
2. 場所 福岡市役所15F 1503会議室(オンライン 併用)
3. 出席者 定村委員長、平井副委員長、荒牧委員、猪野委員、伊賀上委員、シグデル委員、清水委員、張委員、関根委員、松浦委員、吉住委員(欠席者:郷原委員)
4. 開会
5. 議事(委員の主な意見)

今年度の主な取組みの進捗状況について

- 4コマ漫画やバ리카タキッズのPRも含め、新しいメディアを使って、ユニバーサルデザインを設定することに福岡らしさが出てとても良い。
- 子育て真っ盛りの人たちなど40代以降の認知度向上のため、公民館で体験型のワークショップをプログラムとして開発するのもよいのではないか。ラジオや新聞などのオールドメディアを活用するなど年齢が高い層にもアプローチしてほしい。
- 七隈線の延伸が完了し、認知症の方向けのサインなどを採用している中、タイムリーにユニバーサル都市福岡でも発信していく必要がある。
- 天神ビッグバンで街が変わる中、観光客を含め市民がストレスフリーに市内を動きまわれるよう、バリアフリーマップを更新していくとよい。
- 七隈線新駅のトイレはスイッチの配置もJIS標準になっている。天神ビッグバンの新物件のすべてのトイレが同様になれば障がい者にも使いやすい。難しいからこそ、お手本として価値がある。
- 点字ブロックやトイレのユニバーサルベッドなど、世界でも進んでいると思われる七隈線のユニバーサルデザインを、本協議会でオーソライズして、福岡市ユニバーサル推奨デザインのような形で、これからの天神ビッグバンのビルなどに啓発することができないか。
- 普及の活動が弱いと感じている。当事者団体やコミュニティとうまく連動して、エンパワーメントを図るため、ふくふくプラザに活動の拠点を置いている各団体に、ユニバーサルデザインの要望を聞くなど一緒に考えていくことがポイントになる。
- ビルの建築について、事業者はバリアフリーガイドラインの基準に合わせる部分までとなってしまう。一定規模以上の建物には、計画段階から障がい者団体や有識者を入れ、ユニバーサルデザインを取り入れるべきと考える。

児童向けの副読本の改定

○小学校を見学した際、現場の先生たちが楽しく一生懸命ユニバーサルデザインの授業を行っていたが、疑問に思う点が散見された。ウェブサイトの中で、皆が分かりやすいモデル授業を紹介できたらよい。

○改定にあたっては、事業者のユーザビリティに関する理解やユニバーサルデザインそのものに対する理解が課題だと感じたので、来年度はワーキングの発足など、体制検討を行うのがよい。

○事業者選定の時からなるべく、アクセシビリティ、ユーザビリティの実績を考慮すべきだと思う。また、できたサイトを確認するのではなく、最初の段階からコミュニケーションをとって、PDCA サイクルを回していく形がよいと思う。

福岡版ユニバーサルマナー検定

○受講者が減っているのは、授業料 5,500 円の費用負担の問題もある。

○福岡のまちを愛するという点で、福岡版は、良いと思う。他方、資格としては、他の地域では通用しないとの懸念を持たれると思う。

○民間資格で 5,500 円はかなり壁になる。福岡検定のような方法がいいと思う。

○福岡検定は毎年 4、5 百名の受験者があり、観光ボランティア団体のガイドも受けるなど、自己啓発になっている。

○福岡検定のように、商工会議所と市が一緒に取り組んでほしい。2 年ぐらい後に、何らか実現できるような道筋を考えてほしい。

その他

○基本計画の成果指標はとても大事で、毎年調査できる項目でないといけない。次回までに委員の皆様にも考えてほしい。障がい者雇用率など各局が所管するものも含めて検討するのが良い。

○障がい者差別解消について、市民向けに既に制作している動画なども使って差別してはいけない、合理的配慮を提供するのが当たり前という啓発を行う必要がある。

○来年度の希望としてインクルーシブな子ども広場開園後の持続的運営コミュニティに関するワーキングを設置してほしい。

7. 閉会